

二十一世紀における 日本文学の展望国際会議プログラム

一九九九年十二月十七日（金曜日）

09:20—09:50	受 付	
09:50—10:10	開会の辞	郭 維 夏 林 水 福 森田兼吉
10:10 10:30	公開講演	題 目：二十一世紀における台湾の日本文 学研究的展望 演 講 者：林水福
10:30 12:05	研究発表	題目： 1 宮澤賢治の詩と抵抗性 2 明治時事小説における近代朝鮮論 ——「甲午東学農民革命」を中心に 3 愛における他者の問題 ——有島武郎『或る女』を読む 司会者：頼錦雀 発表者：崔博光、朴鐘明、黄錦容
12:05—13:30	昼 休 み	
13:30 14:35	研究発表	題目： 4 『萬葉集』巻一卷頭歌の性格 5 日記文学研究のこれから ——巨視的な研究の必要性 司会者：陳伯陶 発表者：仁平道明、森田兼吉
14:45 15:50	研究発表	題目： 6 日本文学における「無」の美 7 『伊勢物語』における和歌の位置付け 司会者：劉長輝 発表者：黄翠娥、中村祥子

一九九九年十二月十八日（土曜日）

09:30—10:00	受 付	
10:00 11:05	研究発表	題目： 8 世界文学としての江戸文学の将来 ——グローバルスタンダード（地球的規 準）の視点から 9 長崎の平和鐘声の代言者 ——永井隆博士の「平和理念」 司会者：横路明夫 発表者：渡辺憲司、頼振南
11:15 12:20	研究発表	題目： 10 芥川における『平家物語』の変容 11 『和泉式部日記』に見られる物語性 司会者：黄瓊慧 発表者：楊錦昌、徐雪蓉
12:20 12:35	閉会の辞	崔博光 黄瓊慧